



一次救命処置の流れ

① 反応の確認



傷病者の肩をたたいて「大丈夫ですか?」と声を掛ける。反応がないときは大きな声で助けを求め、119番通報とAEDを依頼する。

② 呼吸の確認



胸や腹部の上がり下がりを見て「普段どおりの呼吸」をしているか判断。呼吸がないときや迷ったときは心停止と判断し、③の行動へ進む。

③ 30回の胸骨圧迫



傷病者の胸の中心に手を置き、約5cm沈む強さで、100~120回/分の速さで連続30回胸骨圧迫を行う。

④ 人工呼吸(可能であれば)



傷病者の鼻をつまみ、約1秒かけて息を吹き込み、胸が上がるのを確認(2回)。AEDが到着するまで③④を繰り返す。

⑤ AEDの準備



電源を入れ、音声の指示に従い、電極パッドを装着。自動的に心電図の解析が始まる。解析中は誰も傷病者に触れていないことを確認する。

⑥ AEDの電気ショック



「電気ショックが必要です」の音声流れたら、誰も傷病者に触れていないことを確認し、ショックボタンを押す。

※電気ショックを行ったら、直ちに心肺蘇生(③④の手順)を再開。2分ほど経ったら、再びAEDが心電図の解析を行うので音声メッセージに従う。以後は、心肺蘇生とAEDの手順を繰り返す。

いざというとき、使えますか AED

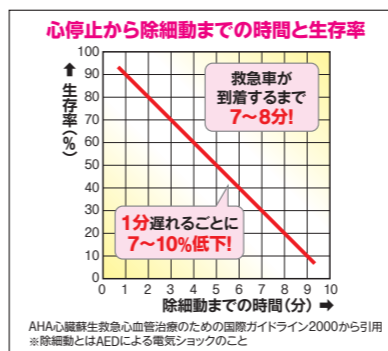
～大切な命を守るため～

もしも、自宅や職場、学校で突然目の前の人が倒れてしまったとき、その命を救うために皆さんは何をしたらよいか知っていますか。毎年約6万人が心臓突然死で亡くなっている中、いざというときに勇気をもって行動できるように、ここではAEDを使用した救命手当を中心に紹介します。

救命車到着までの救命手当が大切

「心臓や呼吸が止まった人の治療は、1分1秒を争います。その命が助かる可能性は、その後約10分間で急激に減ってしまいます。このようなき、まず必要なのは119番通報をすることです。正確な情報を迅速に通報することで、救急隊員による処置を早く受けることができます。

しかし、通報から救急車が到着するまでに、本市では平均7.8分(全国平均8.5分)掛か



AEDとは、きれんし血液を流すポンプ機能を失った状態の心臓(心室細動)に対して、電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器です。コンピューターによって自動的に心室細動かどうか調べられ、電気ショックの必要が判断されます。音声メッセージで指示されるため、誰でも簡単に確実に操作することができます。

AEDとは

適切な救命手当を行って、到着した救急隊やその先の医療機関にバトンをつなぐことができれば、その後も変わりなく生活できる可能性は高くなります。いざという時にあわてず救命手当ができるよう、消防本部で実施している救命講習を受講しましょう。普通救命講習は、AEDの使用法を含む心肺蘇生や気道異物除去法、止血法などを学ぶことができます。さらに、年数回、普通救命講習の内容に加え、小児乳児の心肺蘇生、固定法、傷病者管理法なども学ぶことができる上級救命講習も開催

救命手当を担う人材の育成とAED設置場所の拡大

市では救命手当の担い手を増やすため、平成27年度から市内の全ての中学2年生を対象に保健体育の授業の一環として、「救命入門コース」を実施しています。同コースでは、消防本部、教育委員会、学校が連携し、AEDを使用した心肺蘇生教育に取り組んでいます。

また、AEDの設置箇所の拡大にも取り組んでいます。小・中学校や公民館をはじめとする各公共施設に加え、平成29年にコンビニエンスストア各社とA



「救命入門コース」に真剣に取り組む生徒たち

勇気を出して 一歩を踏み出しましょう

応急手当を行ったりAEDを使ったりすることは決して難しいことではありません。正しい知識を身に付けることで誰でもできることです。大切な人の命を救うために、まずは講習に参加し、その一歩を踏み出してみませんか。

▼問い合わせ 消防署救急担当
☎5500-2123

救急救命士インタビュー



大切な人を守るために...

清水 忠 さん
(消防署本署第1中隊・救急救命士)

突然の心停止の多くは、自宅で発症しています。救命のためには、救急車が到着するまでに、居合わせた人が、一秒でも早く胸骨圧迫を実施し、AEDを使用することが必要です。また、生活の中で健康を維持し、突然の心停止を予防する努力も大切なことです。大切な人の命を守るため、そして、いざという時に勇気を出して正しい行動ができるよう、多くの人が救命講習を受講してほしいと思います。